

# I 京都府における調査結果の概要

## 1 実施概要

- (1) 実施日 平成30年4月17日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科等
  - ア 教科に関する調査
    - ・ 国語、算数・数学
      - … A「主に知識に関する問題」とB「主に活用に関する問題」
    - ・ 理科
      - … 「主に知識に関する問題」と「主に活用に関する問題」を一体化した問題
  - イ 質問紙調査
    - ・ 児童生徒に対する調査
    - ・ 学校に対する調査

### (4) 実施学校・参加児童生徒数〔公立学校（京都市を除く）〕

	区分	実施学校数	児童生徒数
小学校	全国	19,433校	1,030,031人
	京都府	208校	10,108人
中学校	全国	9,597校	967,196人
	京都府	98校	9,559人

※平成30年4月17日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

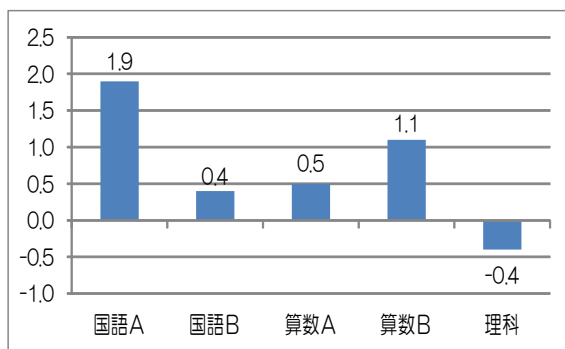
## 2 教科に関する調査の実施結果（京都市を除く）

### (1) 平均正答率の状況

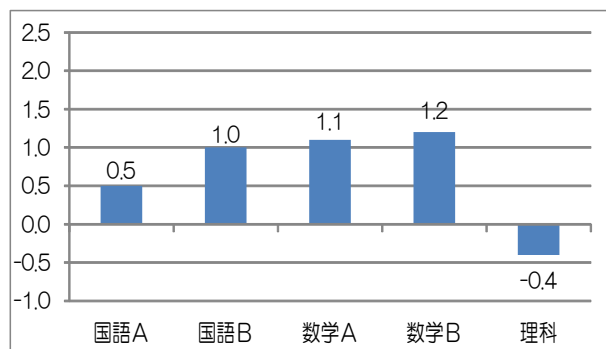
教科等	国語				算数・数学				理科	
	A「知識」		B「活用」		A「知識」		B「活用」		京都府	全国
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国		
小学校	72.6	70.7	55.1	54.7	64.0	63.5	52.6	51.5	59.9	60.3
中学校	76.6	76.1	62.2	61.2	67.2	66.1	48.1	46.9	65.7	66.1

### <全国の平均正答率との比較>

#### 小学校



#### 中学校



## (2) 概況

今回の調査で測定できる学力は、特定の一部ではあるが、結果を平均正答率や正答数分布などで見ると、京都府内の児童生徒の学力は、調査を実施した教科とその領域等で概ね全国平均を上回っている。

○小学校は、国語、算数ともに、平均正答率は全国平均を0.4ポイント～1.9ポイント上回っているが、理科は0.4ポイント下回っている。

○中学校は、国語、数学ともに、平均正答率は全国平均を0.5ポイント～1.2ポイント上回っているが、理科は0.4ポイント下回っている。

## 3 質問紙調査の結果

今年度から質問項目数が減っており、毎年行われている質問で今年度質問項目にないものもある。本府の状況を全国と比較すると、大部分の質問項目において全国の状況と同様の傾向が見られる。しかし、細部を比較すると本府の特徴は以下の点に見られる。

(1) 理科に関わる項目ではほぼ全ての項目において、肯定的回答の割合が全国平均よりも低い。特に、理科室において観察や実験を行う回数が全国平均よりもかなり少ないので、この観点からの授業改善を進める必要がある。

(2) 自尊感情に関する項目での肯定的回答も低く、将来の夢や目標を持たせるために、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導や、児童生徒一人一人によい点や可能性を見付け評価する取組の充実が必要である。

(3) 府でコミュニティ・スクールの導入が進んでいることもあり、地域の方との連携状況は良好ではあるが、授業等で地域のことを調べたり、地域の方と関わったりする機会の設定は、全国平均よりも低い傾向がある。

(4) 近隣の中学校(小学校)との授業研究を行う頻度(小中連携)は全国平均よりも高く、京都府の強みである。

## 4 その他

本資料に掲載したデータは、調査実施日当日に受検した京都府(京都市を除く)の児童生徒の結果であり、分析もこのデータを基に行っている。なお、後日受検した児童生徒はこのデータには算入されていない。